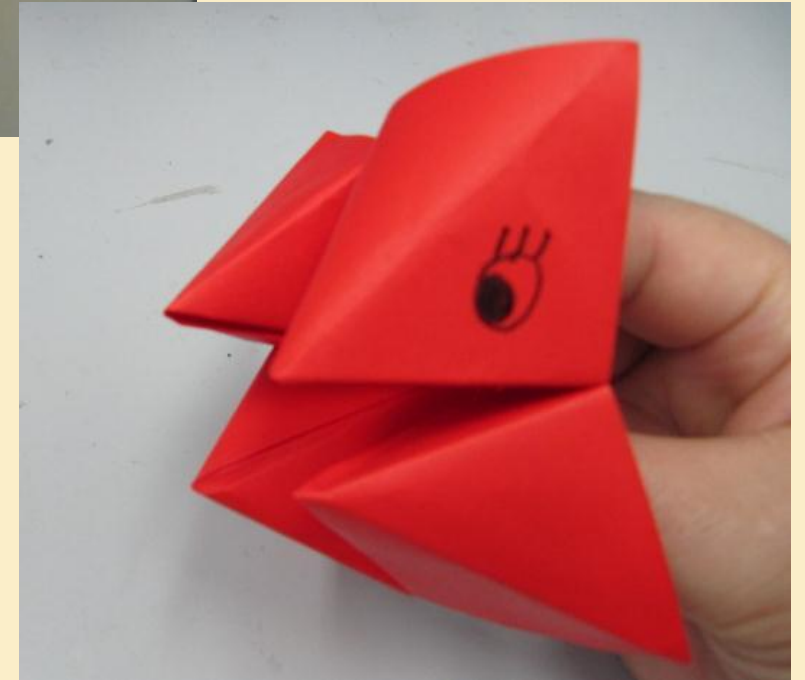




- 講座で紹介しているプレパレーションの実践例

講座で紹介している医療処置を受ける子どもへのプレパレーション(心理的準備)のグッズや実践例を写真で紹介しています。

指人形、玩具、折り紙を使う



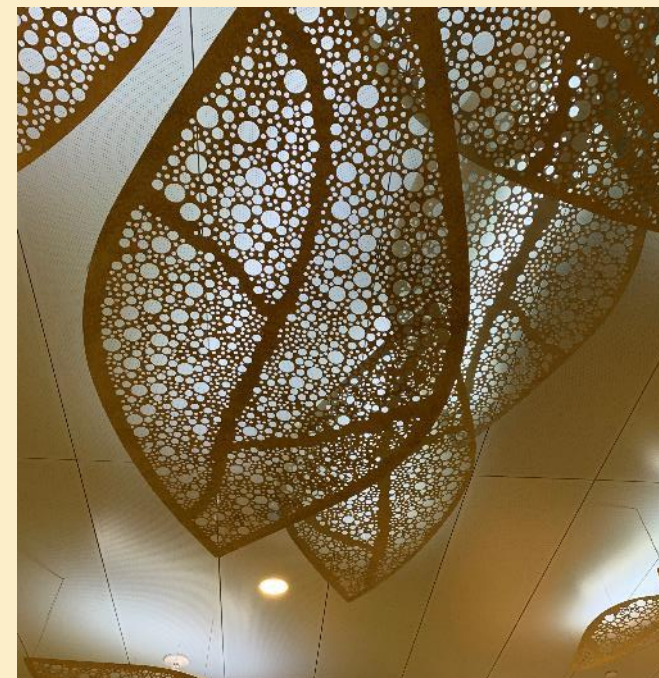
包帯の色を選んでもらう



がんばったことを認める
‘ごほうびグッズ’



待合室の工夫



間接照明



お絵描きコーナー
Drawing

木製の備品・装飾



人形や模型を用いた処置前後のプレパレーション Medical Play



- 子どもにキワニス人形(白い無地の木綿の人形)と12色のペンを渡し、顔や衣服、髪の毛など体の部分を描いてもらいます。

↓

- 処置前にその人形と木製模型や医療用具を使用し、点滴・採血の手順のシミュレーションを子どもに見せながら行います。(約5分)

↓

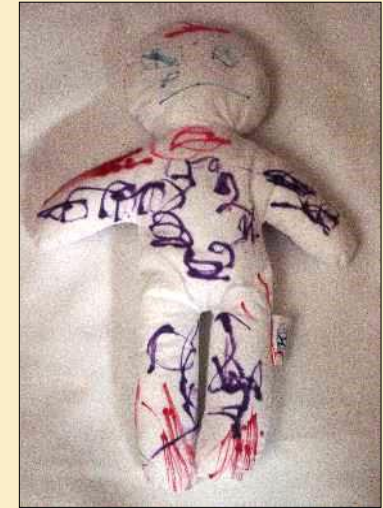
- 処置後に人形のもう一方の面に顔や衣服の絵を描いてもらい、人形は持ち帰ってもらいます。(post procedural play)

*持ち帰った人形をお守りとして次回の受診時に持参する子どもやベッドサイドにおいておく子どももいます。

手術・採血前後に描いた人形

Pre-procedure

Post-procedure



4歳女児VUR手術前

手術後



6歳男児採血前

採血後

幼児の気をそらす工夫 Distraction

年少の子どもに対する検査や処置中の恐怖心を緩和するため、「気をそらす」あるいは「気をまぎらわせる」技術として、ディストラクション（distraction）があります。子どもにとってなじみのあるぬいぐるみや動きのある人形を見せたり、振るときらきらと光るものや音が鳴る玩具（マラカスなど）を用いたりすることによって、気をそらしたりまぎらわせたりすることで、医療処置への恐怖心や不安感が緩和され、短時間で実施でき子どもと医療者双方の負担軽減につながります。言葉や数字が理解できる幼児に対しては、処置の手順に沿っておまじないを唱えたり、数を一緒に数えたりすることもディストラクションとなります。



‘される’側から‘する’側になる



子ども用のユニフォーム



スウェーデンの病院では体験コーナーを設けて、子どもたちが受けた処置を母親を患者に見立てて遊んでいました。



人形で模擬体験



子どもが医療処置を受けることは受動的な体験です。自分では何もできない無力感から自尊心が下がる体験となります。何か自分で能動的に主体的にできる体験をすることにより自尊心を保つことができると考えられています。医療処置の疑似体験を人形に対して能動的に行うことにより、処置やケアのイメージをもつことや、心のバランスを保つことができるといわれています。